

	①大まかな学習《視点》	②目指す姿	児童・生徒が取り組む身近な問題や課題
3年	「わたしたちのくらしとスーパーマーケットのしごと」 スーパーマーケットで販売に従事している人々の様子について調べ、消費者の願いやニーズに応じて販売の工夫や努力していることや、そこにある思いや願いを考える。《視点①・②》	スーパーマーケットのサービスや価格設定などの工夫や努力を理解し、そこで働く様々な人々の立場に立って考え、学習新聞にまとめている。	◆自分たちは消費者としてどうしていけばよいのだろうか。 例「スーパーマーケットがなければ、わたしたちの生活はどのようになるのだろうか。」
	「わたしたちのくらしと農家のしごと」 練馬区の農産物や農業に従事している人々の様子について調べ、生産農家の工夫や努力、他地域とのつながりについて考える。《視点①・②》	練馬区の農業に従事する人々の工夫や努力、苦労を理解し、そこで働く人々の思いや願いを考え、自分の住むまちのブランド野菜をポスターで紹介する。	◆練馬区の農業は今後どのように変わっていくのだろうか。 例「練馬区に畑は必要なのか？」という問いから、地元のブランド野菜を広める方法を考える。
4年	「安全なくらし-火事を防ぐ-」 練馬区の火災の現状や火災が起きたときの社会の仕組みを知る。消防署や消防団の人々の話から、思いや願いを考え、火災を防ぐためのポスターを作成する。《視点①・②》	火事を防ぐために、地域の人々と関係機関が協力をしていることで、地域の安全が守られていることを理解し、自分のできることを考えている。	◆火事を防ぐために自分ができることを考えよう 例「消防署や消防団は必要なのだろうか」防火は自分にもできるが、消火は専門家の力が必要であることが分かる。
	「健康なくらし-ごみの処理と再利用-」 東京都のごみ処理の仕組みや現在の問題を知る。ごみ処理施設や清掃局の人々、家庭の話から、思いや願いを考え、ごみを減らすための自分の考えを新聞にまとめる。《視点①・②》	ごみを減らすために、関係機関や地域の人々、家庭が協力をしていることで、ごみを減らす努力をしていることを理解し、自分のできることを考えている。	◆ごみを減らすために自分ができることを考えよう 例「ごみゼロは可能なのだろうか」処理施設や技術面だけでなく、自分のできることの可能性を考える。
5年	「これからの食料生産とわたしたち」 食生活の変化や農業、漁業従事者数の減少、また輸入量の変化の様子について統計から読み取り、これからの食料生産について考える。《視点①・④》	農業、漁業の学習を生かしながら、現在の食料自給率と輸入量の変化の様子とを関連させて、現在の食料自給率について考えている。	◆これからの日本の食糧事情はどうなるのだろうか。 例「現在低下を続ける食料自給率と今後導入されるTPPの関わりを考えよう」
	「環境を守るわたしたち」 身の回りには、様々な公害や環境汚染があることを知る。また、それらの環境をよりよくしていくために活動している人たちの活動を知り、環境を守ることの大切さについて考える。《視点①・②》	農業、漁業、工業の学習を生かしながら、身の回りの環境汚染が自分たちの生活に与える影響について考え、これからは豊かな環境を維持していくことが大切であることに気が付いている。	◆「環境の悪化と人々の生活の関わり」人が多くなることで環境が悪くなるという問題について考え、実生活で自分たちにできることを考える。
6年	「今に伝わる室町文化」 京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画について調べ、室町文化が生まれたことがわかること。ここで生まれた文化は今も多くのの人に親しまれていることに触れるようにする。その際、能、茶の湯、生け花などについても関連的に取り上げることができるようにする。《視点③》	書院造の影響を受けている伝統的な家屋を調べたり、水墨画を描く体験を行ったりして、室町文化に関心をもち、学習している。	◆室町時代に生まれた文化は現代にどのように伝わっているのか。 例「身近な生活から現代に残る室町文化を探してみよう」
	「長く続いた戦争と人々の暮らし」 各地への空襲、沖繩戦、広島・長崎への原爆投下など、国民が大きな被害を受けたことがわかるようにする。《視点③》	当時の被害や、様子について資料だけではなく、現在にも残る戦争遺跡や人々の話など多くの視点から具体的に調べ、まとめている。	◆当時の人々はどのような被害を受けたのだろうか。また、どのような思いで、生活していたのだろうか。
7年 (中1)	(1)ーウ「世界の諸地域」 (ヨーロッパ) ヨーロッパ諸国が、なぜ地域統合へ進んできているのかを多面的・多角的に考察し、それが地域のもつ課題に対する人々の選択の結果であることを学ぶ。《視点①》	どの地域にも地域的特色やそれに関連した課題があることと、どの地域にもよりよい地域へ向けた人々の思いや動きがあることを理解し、どのようにしていくべきかを様々な立場の視点に立って考察している。	◆よりよい地域へ向けた取り組みとは何だろうか。 例「なぜヨーロッパは統合の道を選んだのか」
	(南アメリカ州) 南アメリカ州で進んでいる森林伐採の背景を学習した上で、開発と環境保全の両面からよりよい南アメリカ州について考察する。《視点①》	※他の「世界の諸地域」においても地域的特色、課題の発見と、よりよい地域へ向けた考察を繰り返し行う。	例「よりよい社会のために、環境保全と開発のどちらをとるべきか」
8年 (中2)	(2)ーウ「日本の諸地域」(東北地方) 東北地方の地域的特色を生かす文化を中核として学び、その地域的特色を生かした東日本大震災からの復興のありかたについて多面的・多角的に考察する。《視点①》	どの地域にも地域的特色と、それに関連した課題があることと、どの地域にもよりよい地域へ向けた人々の思いや動きがあることを理解し、どのようにすれば、よりよい地域を形成していけるかを多面的・多角的に考察する力を身につけている。	◆その地域ならではのよりよい地域(町)づくりとは何だろうか 例「東北ならではの復興町づくり・町おこしプランを考えよう」
	(2)ーエ「身近な地域の調査」(豊玉地域) 豊玉地域で約80年前に行われた区画整理事業に込められた先人の思いを、新旧地形図の比較や碑文、フィールドワークから読み取り、今後のよりよい豊玉の姿について多面的・多角的に考察する。《視点①・②・③・⑥》	これまで世界や日本の諸地域において学習してきたよりよい地域へ向けて学習してきた成果を生かし、身近な地域においてもよりよい地域について多面的・多角的に考察し、自ら実現へ向けて行動できる態度を身につけている。	例「先人の思いを生かしたよりよい豊玉地域について考えよう。」
9年 (中3)	(3)ー(イ)民主政治と政治参加(地方自治) 練馬区がよりよい地域へ向けて、どのような政策をとっているのかを理解し、今後どのようにしていくべきかについて、多面的・多角的に考察する。《視点①・②》	区民や行政のよりよい地域へ向けた取り組みについて理解を示し、自分自身が地域の一員である自覚を持ってよりよい地域を形成していこうとする態度を身につけている。	◆今後のよりよい地域や国とはどのような姿なのだろうか。 例「よりよい地域へ向けてどのような取り組みができるのかを多面的・多角的に考えよう。」
	(4)ー(イ)「よりよい社会をめざして」 ここまで学習してきた内容から、現代の日本が抱える課題についてをピックアップさせて、持続可能な社会を実現させていくために、自分自身に何ができるのかを多面的多角的に考察し、理由と共に発表する。《視点①・③・④・⑥》	公的資質の基礎を身につけ、自らよりよい社会を築いていこうとする態度を身につけている。	例「よりよい日本や世界のために私たちにできることを、多面的・多角的に考えよう。」

- 視点 ①生命・環境・経済・社会、文化の持続可能性を考えることのできる教材・実践
 ②子どもたちと教師・保護者・地域の人々等をつなぐことのできる教材・実践
 ③子どもたちと異なる時代や世代間の対話と交流をつくることのできる教材・実践
 ④学校と他地域や世界との対話をつくることのできる教材・実践
 ⑤《本質的で根源的な問い》を愛し、抱くことのできる教材・実践
 ⑥《本質的で根源的な問い》への回答を探すための多様な情報収集・活用、社会参画

(参考文献)「ESD 教材活用ガイド」(2009 財団法人ユネスコ・アジア文化センター)

